



弥生っ子

令和8年9月1日
千葉市立弥生小学校
9月号

家庭や地域の温かな支えを通して子供たちを育む

校長 高山 邦美

この夏休みはいかがお過ごしでしたでしょうか。熊本地震や千葉県での豪雨災害など、心を痛める出来事がありました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。豪雨の朝、校内を見回りながら、いつも教室から聞こえる子供たちの声のない静かな校舎を巡りました。がらんとした教室を見ていると、「子供たちは元気に過ごしているだろうか」「楽しい思い出をたくさんつくっているだろうか」と、一人一人の顔が思い浮かびました。

いよいよ9月を迎えます。夏休み中に経験したさまざまな体験や出会いを力に変え、子供たちが充実した学校生活を送れるよう、教職員一同努めてまいります。

さて、学校では子供たちの自己肯定感を育むことを大切にしています。自己肯定感とは、「自分にはよいところがある」「自分は大切な存在である」と感じる気持ちのことです。自分を信じる力は、新しいことに挑戦する勇気や、困難を乗り越える力の土台となります。単学級である本校では、一人一人がいろいろな役割を行っていく過程を通して、力をつけていきたいと考えています。

一方で、自己肯定感は決して「何でもできると思うこと」ではありません。失敗したり、うまくいかなかったりする自分も含めて、「それでも自分には価値がある」と受け止められることが大切です。子供たちは、挑戦と失敗、そして成功を繰り返しながら成長していきます。その過程で周囲の大人から認められたり励まされたりすることで、自分への信頼を少しずつ育んでいきます。「清掃に進んで取り組む子」「友達が困っていると、声をかける子」「挨拶がさわやかな子」「係活動に責任をもって取り組む子」「元気に遊ぶ子」たくさんの頑張る姿を見てきました。学校では、結果だけでなく、努力したことや工夫したこと、友達に優しく接したことなど、一人一人のよさを見つけて認めることを大切にしています。「できた」「わかった」という喜びだけでなく、「最後までやり抜いた」「もう一度挑戦した」という経験も大きな成長です。子供たちが自分のよさに気づき、自分らしく力を発揮できるよう支援してまいります。

また、自己肯定感は家庭や地域の温かな支えの中でも育まれます。「頑張ったね」「ありがとう」「うれしかったよ」といった何気ない言葉は、子供たちの心に大きな力を与え、次への活力へとつながっていきます。学校と家庭が同じ思いで子供たちを見守り、その成長を認め合うことで、子供たちは安心して挑戦し、自信を深めていくことができます。

9月からは学習や行事など、多くの活動が予定されています。一人一人が自分のよさを発揮しながら仲間とともに成長し、「学校が楽しい」「自分が好きだ」と感じられる毎日となるよう取り組んでまいります。また、自然災害が発生するおそれがある場合には、児童の安全を最優先に教育活動を進めてまいります。



エレベーター設置に向けて



引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。なお、お子様のことで心配なことや不安なことがありましたら、いつでも学校へご相談ください。